



ランドセル × ジェンダー

～私らしく、君らしく～

班員 柳田詩織 甲斐優莉 松田結衣 安藤百香 指導者 津嶋 大樹先生

研究の動機

ランドセル売り場やすれ違う小学生を見たときに色の種類が以前より増えたと感じた。世界でジェンダー観が注目されている中、私達は身近な例であるランドセルに着目し、人々のジェンダー観の変化と関係性を突き止めようと考えた。

目的

ランドセルの色とジェンダーとの関係を調べ、ジェンダーの固定観念を無くすための対策を考える。

先行研究

林 雅代・山田 彩佳(2022)

「ランドセルの歴史と日本人のジェンダー観の関連に関する研究」

(概要)

大衆がよく見る雑誌に男の子が黒、女の子が赤のランドセルを背負っている挿絵が多く見られたことから、固定観念が広まったと考えられる。

仮説

年代が進むほど色の種類が増えたのは、雑誌などの影響で固定観念が薄れ選ぶことのできる色の選択肢が増えたためだと考える。

調査方法

(1)各年代の持っていた(持っている)ランドセルの

- ①色
- ②選んだ理由

を年代別に調べるためにgoogleフォームを使って延岡高校の2年生本人やその家族にアンケートをとる。

年代は4世代に分ける。

(小学生/高校生/40歳未満/60歳未満)

※男女にアンケートを採りましたが男性の人数が足りなかったため、女性のみを集計になりました。

(2)アンケートを集計し分析する。

選ばれた全色のランドセルに対する赤色のランドセルの割合を年代別に棒グラフで示す。
ともに、年代別に最も多かった「ランドセルの色を決めた理由」を表に表す。

必要な道具

- ①タブレット
- ②アンケート用紙



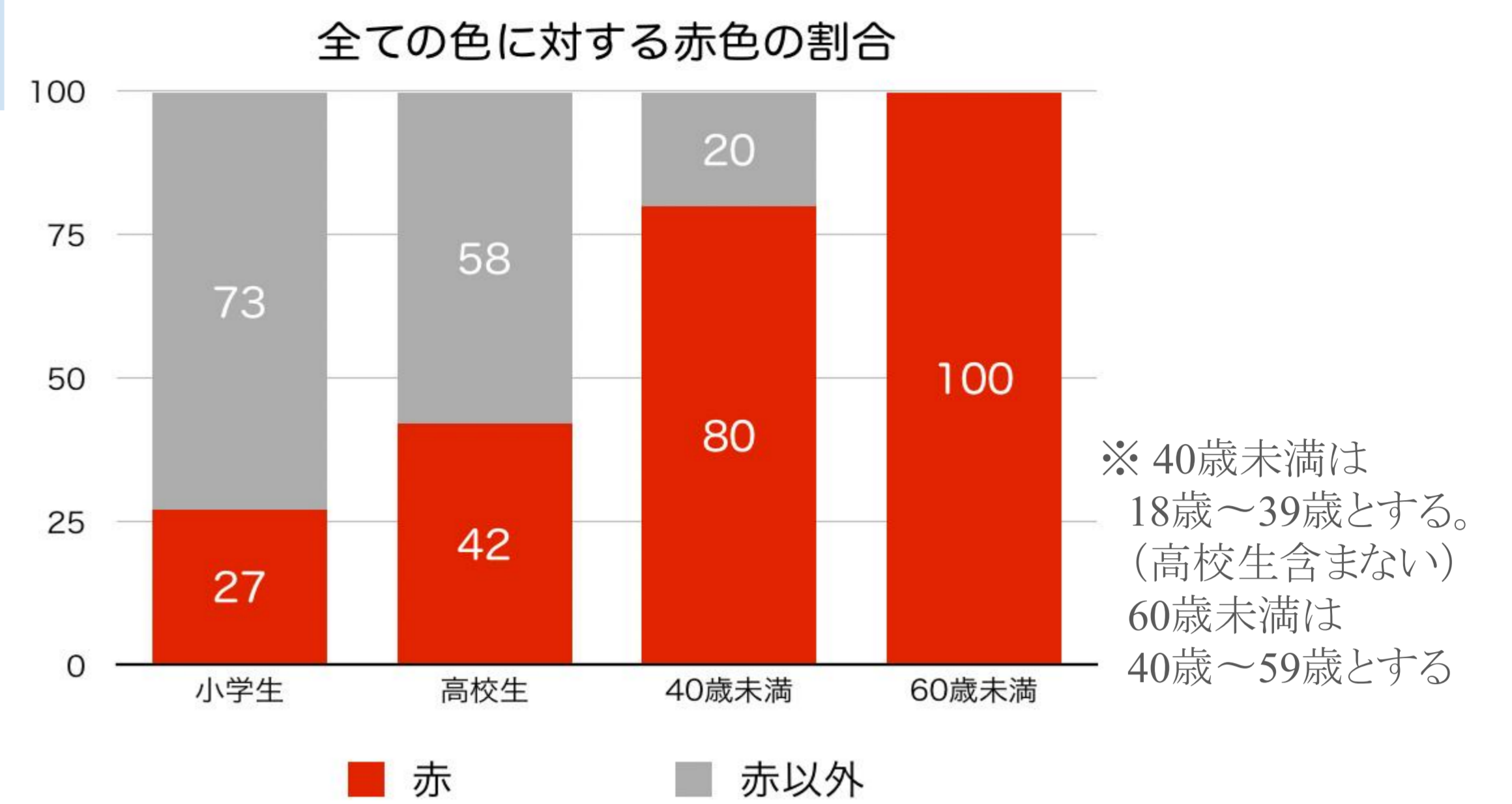
参考文献

林 雅代・山田 彩佳(2022)

「ランドセルの歴史と日本人のジェンダー観の関連に関する研究」

20acajinshi24_11_hayashi_masayo_yamada_ayaka 3.pdf

結果



- ・60歳未満の全ての色に対する赤色の割合は**100%だ!**
- ・ここ数年になるにつれて赤色の割合が減っている。

年代	最も多い色	色を決めた理由(上位1つ)
小学生	茶色	好きな色を選んだ
高校生	赤	好きな色を選んだ
18 (高校生含まない) ~40歳未満	赤	当時の流行だった
40歳～60歳未満	赤	性別で決められていた



雑誌の表紙も昔は女性→赤 男性→黒となっていた

- ・最も多い色について赤以外の色になったのは、小学生のみである。
- ・60歳未満の色を決めた理由は「性別で決められていた」という回答が最も多かった。
- ・アンケートを集計してみると小学生、高校生のカラーバリエーションは16色あったのに対しこれより上の世代は2色しかなかった。(女性のみを集計)

考察

製作技術の向上でランドセルのカラーバリエーションが増えたとも言えるが、消費者のニーズがないと行なわれないと考える。

小学生の結果では、好きな色を選んだ上で茶色が1番人気だったことから女子は赤色が当たり前だという固定観念が消えつつあることを示していると考えられる。

今後の展望

- 男性版の調査も行って結果の考察を行う
- 小学館の編集部にお問い合わせ、表紙の子どもたちが背負うランドセルの色の決め方を聞く
- 小学生以上の男女に、今ランドセルをを選ぶなら何色を選ぶかの調査を行う
- これから調査するもの、すでに調査し終わったものすべてを踏まえて研究の目的である、固定観念を無くすための対策を考える

謝辞

研究にあたり、終始適切な助言を賜りまた丁寧に指導して下さいましたアドバイザーの方、津嶋先生、宮崎先生、また、アンケート・情報提供者に、心より感謝申し上げます。